

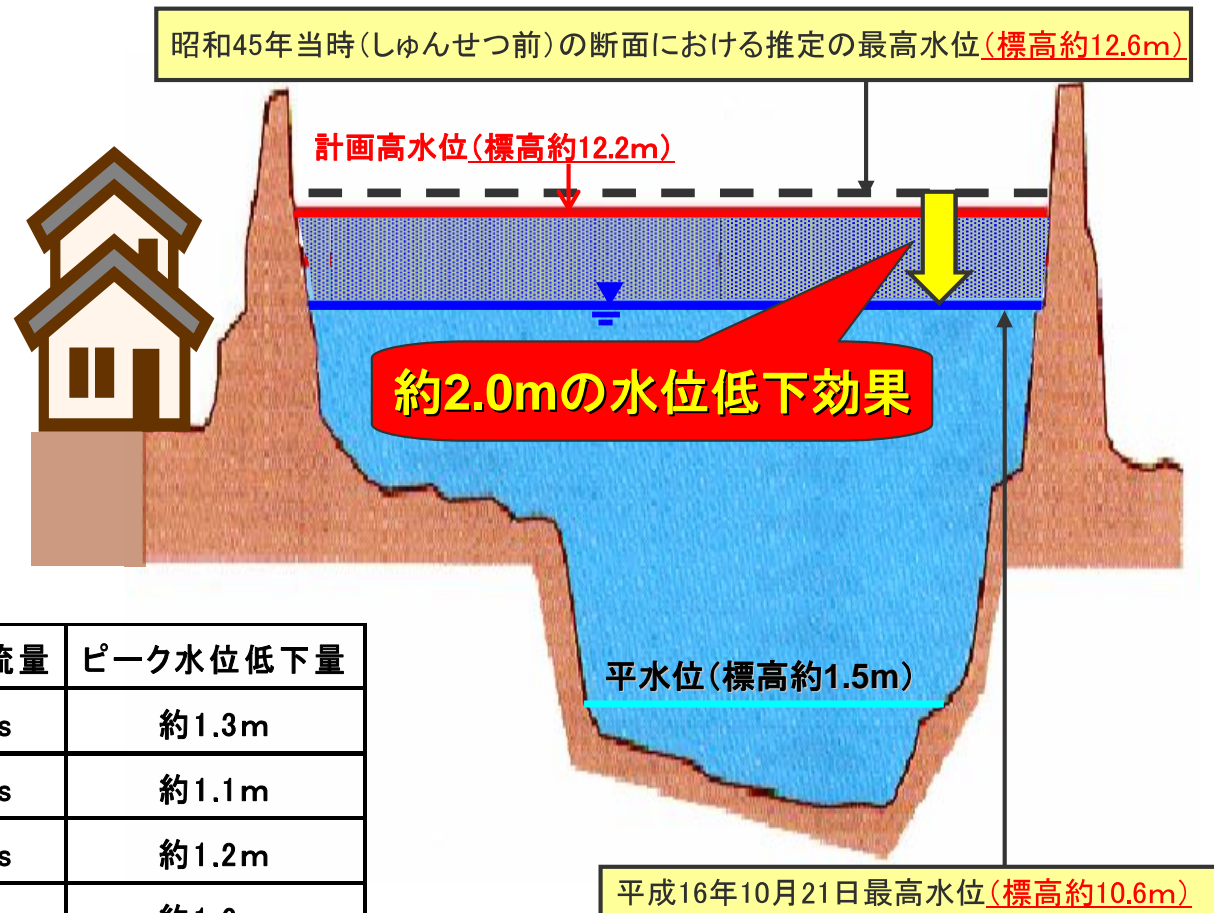
【治水】大規模しゅんせつ工事による治水効果(本川の水位低減)

■大規模しゅんせつ工事による本川の水位低減効果

- 観測史上最大となった平成16年10月洪水時には、長良川本川で約2.0mの水位低下効果。
- 仮に大規模しゅんせつを行っていないならば、計画高水位を上回り、破堤等の恐れがあったものと推定。



本川の水位低減効果(平成16年出水)



年 月 日	出水要因	墨俣地点最大流量	ピーク水位低下量
平成10年10月18日	台風10号	約4,500m ³ /s	約1.3m
平成11年9月15日	台風18号	約5,900m ³ /s	約1.1m
平成12年9月12日	台風14号	約4,900m ³ /s	約1.2m
平成14年7月10日	台風6号	約4,400m ³ /s	約1.6m
平成16年10月21日	台風23号	約8,000m ³ /s	約2.0m

すのまた

墨俣地点(河口から約39km)横断図

長良川河口堰による利水効果

- 長良川河口堰の完成により都市用水として22.5m³/sの新規利水が可能となった。
- 水道用水の水源として、長良導水(愛知県水道:2.86m³/s)、中勢水道(三重県水道:0.732m³/s)に安定した供給を行っており、約75万人の人々に利用されています。



(単位: m³/s)

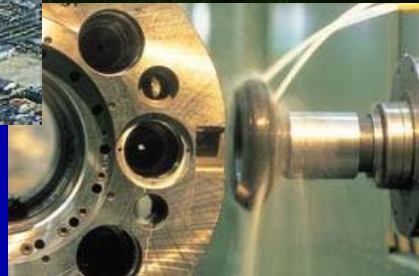
区分	水道用水	工業用水	計
愛知県	(8.32)	(2.93)	(11.25)
	<6.27>	<2.20>	<8.47>
	2.86	0.00	2.86
三重県	(2.84)	(6.41)	(9.25)
	<2.14>	<4.83>	<6.97>
	0.732	0.00	0.732
名古屋市	(2.00)	(—)	(2.00)
	<1.51>	<—>	<1.51>
	0.00	—	0.00
計	(13.16)	(9.34)	(22.50)
	<9.92>	<7.03>	<16.95>
	3.592	0.00	3.592

上段: () 書きは、計画当時の開発水量
 中段: < > 書きは、安定供給可能量 (近2/20)
 下段: 水利権量

※ 愛知県工水5.46m³/sを上水に転用
(H20.5.30国土交通大臣認可)

既得用水の安定取水

●長良川を水源としていた既設工業用水やかんがい用水などは河口堰運用開始後は、安定した取水が可能となった。



北伊勢工業用水(74社83工場)

